

## 文化研修部 活動報告書

### 那覇国際高校PTA 文化研修部

「琉球から沖縄～水の歴史をたどる旅」研修を実施いたしました。

《開催日》 令和6年10月26日（土）

《研修日程》

8：45 那覇国際高校正門 参加者集合

8：55 那覇国際高校正門 集合写真撮影

9：00 座喜味城跡へ向けて出発

9：50 座喜味城跡見学

10：30～12：00 読谷村の集落を散策

ジョーガー・ミージョーガーウエンダカリガー

→ミーガー・モーガー→座喜味児童公園

→ユンタンザンミュージアム館内見学

12：30～13：00 恩納村博物館、おんなの駅なかゆくい市場

13：30～14：30 アクアセンスホテル Bon Fire にて昼食

15：10 沖縄県公文書館

16：45 那覇国際高校 解散

《参加人数》 32名

【講師】 島袋美由紀氏

読谷村出身琉球大学博物館（風樹館）学芸員

沖縄地域公共政策研究会「すいまーるプロジェクト」主宰

文化研修部主催のツアー「琉球から沖縄～水の歴史をたどる旅」を開催しました。移動時間が長い那覇から読谷へと向かうバスの道中では、PTA副会長の黒木さんを始め各学年の評議委員によるPTA活動の説明や、部長の佐藤さんからの文化研修部の活動紹介、部員による水に関するクイズを出題して水に対して興味を持ってもらいました。

座喜味城跡では『島袋美由紀氏』を講師としてお招きし、城主の護佐丸のことはもちろんその周辺に昔から存在している集落での水にまつわる歴史を学びました。座喜味城はどこから水を得ていたかなどの書物は残っていないそうで、お話を聞きながら遠い昔の生活や様子に思いを馳せました。そして、座喜味城の城壁や城門の石積みの精巧さや美しさは沖縄の城の中で随一といわれ、当時の石造建築技術の高さを示す貴重な史跡は圧感でした。座喜味城跡見学の後は歩いて付近の集落を回り、その時代の生活用水として利用していたガーを見て回りました。ガーでは今でもきれいな水を湛えており、住民が大切に保全しているのに驚きました。10月も終わりの時期ではありましたがとても天気がよく気温も高くなったので、熱中症対策をとりながらの散策となりました。また偶然にもこの日は

読谷祭りの日でもあり、ユンタンザンミュージアムへの入館料が無料となっており、観光客に混じってたくさんの展示品の観覧を楽しみました。

座喜味城跡を後にして次はバスで恩納村へと移動しました。移動中のバスの中では部員の赤嶺さんが恩納村についての紹介を行いました。当初予定していた仲泊遺跡はイノシシの出没のため危険と判断し、恩納村博物館とおんなの駅なかゆくい市場へと変更し散策しました。参加者はおのこのショッピングや観覧をして過ごしました。

昼食はアクアセンスホテル Bon Fire でのバイキングで、中華を中心としたメニューは美しくそしてとても美味しく、参加者はたくさんの料理を嬉しそうに口に運んでいたように思います。ご飯や景色を楽しみながら、会員同士のおしゃべりにも花を咲かせているようでした。

昼食後はバスで南風原へと移動し、沖縄県公文書館で沖縄の水にまつわる歴史について公文書を通して学びました。副部長でもあり職員でもある大城さんの説明はとてもわかりやすく、沖縄初の水道の設置やダム建設に関することなど写真付きで学ぶことができました。また、2階では専属のアーキビストによる公文書の調べ方や取り寄せ方、インターネットを介しての航空写真の閲覧方法を知りました。

今回は水をテーマに現代と過去を行ったり来たりしながら、改めて水の大切さを感じることができました。移動距離はありましたが、空き時間も休憩や歓談タイムとして、会員同士の親睦を深めることができたように思います。たくさんの方のご参加ご協力をありがとうございました。

#### 《活動の様子》







以上